

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
 武蔵野市中町1の13の1 3F
 電話 0422(51)3131
 FAX 0422(51)3133
 musasino@yomiuri.com
 都内版編集室
 電話03(3217)1465・1466
 江東支局 電話03(3631)6116
 立川支局 電話042(523)4477
 ホームページ
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
0120-4343-81

【広告】読売Palette

03(6272)9027
 【折込チラシ】 0120-03-4343
 【読売旅行】 03(5550)0666

9月12日(日曜日)
 旧 8月6日<先勝>

あすの暦

通日 255
 月齢 5.1
 (正午)



東京標準
 満潮 8.27
 19.47
 干潮 1.58
 14.08
 (中潮)

大宰治と同じ年に生まれた松本清張(1909〜92年)もまた武蔵野を描いた文人でした。清張は、短編小説「笛壺」(「文藝春秋」昭和30年6月)で初めて作品に武蔵野を登場させます。

「案内記によると、土地に出来たそば粉を武蔵野の湧水で打ったのが昔からの名物だそうであるが、この蕎麦屋は家の構えの貧弱なこと田舎のうどん屋と異なるところがな



「おれ」のよりどりい

松本清張 ①



深大寺周辺には多くのそば屋が並ぶ

い。「から本作は始まり、「七に近い齡」の「おれ」が「東京」を逃れて「武蔵野」に辿り着き、過去を回想します。描写などからは調布の深大寺周辺と推定されますが、「武

蔵野」とのみ記されます。「おれ」の回想を通して読者に伝えられるのは、「福岡県の田舎の中学校教師」の上京物語です。20代半ばの時に東京帝大教授に見出され「学者を志して」上京し「史料編纂所員」になります。世話好きの教授の「学問上の業績」に空虚と失望を覚えた彼は、まもなく延喜式という生涯のテーマと出会い研究に打ち込みます。一方で、「女学校の国語科の教師」と出会い、教頭の愛人であることを知り、嫉妬などから彼女に心を向けます。彼女の直感が研究の助けになったこともありました。二十数年の歳月を要して論文を書き終えた彼は、帝国学士院恩賜賞を受賞。文学博士となり、妻子と蔵書と名誉を捨てて女教師との新生活を

始めますが、彼女を「伴侶」とは思えず、孤独に涙します。東京で夢を叶えた男が虚しさを抱えた時によりどころにしたのは、「わが子以上」の存在である自作の著書と武蔵野という場所でした。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋念)

おすすめの1冊

「或る『小倉日記』伝 傑作短編集 1」

本書の表題作「或る『小倉日記』伝」は、障害をもって生まれた青年が「小倉時代の森鷗外」を調査する一生を描いた芥川賞受賞作です。その他、「笛壺」を含めた計12の短編が収録されています。巻末の「解説」で平野謙が指摘するように、作者の「主体的な感情移入」がみられる作品群です。



(新潮文庫)